日本経済新聞（夕刊）　2008年（平成20年）6月11日（水曜日）

障害者にパティシエの道

神戸で養成講座

社福法人など今月から

洋菓子の世界で活躍する障害者を育成しようと、知的障害者らを対象にしたパティシエ（菓子職人）の養成講座が今月、神戸市で始まる。社会福祉法人「プロップ・ステーション」（同市、竹中ナミ理事長）など日清製粉や製菓・製パン原材料卸の日東商会（大阪府東大阪市）が協力。日清製粉の工場などで一回四―五時間の講義・実習をし、ケーキやプリンの作り方を教える。オーストリア政府から「製菓マイスター」の称号を受けた洋菓子メーカー、モロゾフの八木淳司氏が指導する。

受講希望者四人程度を十三日まで募集する。経験が問わない精神・知的障害者で、将来、パティシエとしての就労や洋菓子の製造販売に携わる希望を持つ人が対象。受講料は一人二万円。

プロップ・ステーションと企業十二社は洋菓子の世界で活躍する障害者を育てる「神戸スウィーツ・コンソーシアム」を今月設立した。今回の講座は活動の第一弾。

障害者だから買ってあげようというのではなく、おいしいから売れる洋菓子を作れる人材を育てたい」と意気込む。

講座は二十八日が初回で、十二月までに五回開く。